

まめに先生が先生

〈66〉・2

”おなご先生”の独り言in診察室

1月は行く、2月は逃げる。昔の人はまいこと言っていますが、あつという間に日が過ぎていきますね。りびえの読者の皆さんは、まめに過ぎておられますか。風邪などひいておられますか。今回はこの冬流行している「マイコプラズマ感染症」という皆さん聞き慣れない病気に

マイコプラズマとは微生物の一種。直径約1マイクロメートル(1000分の1mm)の大きさで、ウイルスよりも少し大きく、細菌よりも少し小さい病原体です。これに感染すると気管支炎や肺炎などを引き起こします。マイコプラズマによる

感染症は秋から冬にかけて発生、4年ごと、ちょうどオリンピックの年に流行するといわれてきましたが、最近季節性や流行周期は見られなくなっています。

マイコプラズマの感染力は強く、家庭や学校、職場での集団感染が見られます。抵抗力の弱い人ばかりでなく、健康な若い方にも発症するのがマイコプラズマの特徴です。マイコプラズマ肺炎にな

吸い込む②接触感染(直接病原体に触れた手で口や鼻を触る)、この2パターンです。それではマイコプラズマ肺炎の主な症状を説明しましょう。

①頑固な乾いた咳が出ます(夜不眠になるほど)だともいわれています。②喀痰(かくたん)はあまり出ないが、透明または白(かえて)気付きにくく危険です。③高熱、微熱いろいろ

”聞き慣れぬが、怖い病気”マイコプラズマ感染症”の巻



用する抗生剤を投与しても無効で重症化することもあり。重症化するとは肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、肝機能障害、ゼン息を引き起こすことがあり危険です。

マイコプラズマの診断はレントゲン、血液検査(抗体の有無を調べる)、喀痰培養検査などがあります。いずれも結果が出るまでに1日以上時間を要するため、通常は自覚症状や流行状況、経過で臨床的判断をし、治療を開始します。

そこで問題。Q1・マイコプラズマは感染してから何週間後に前記のような症状が出るのでしょうか?

間後③約3週間後 また、マイコプラズマは風邪の症状と似ているため風邪と間違われがち。ほかの肺炎と間違われがち。ほかの肺炎治療に使

治療はマイコプラズマが増殖するときにタンパク質合成を阻害するマクロライド系、またはテトラサイクリン系の抗菌薬を使用します。しかし、最近ではテトラサイクリン

系は菌が黄ばんだりするため使用頻度がぐっと減り、3日間で効果を持続すると約1週間効果が持続するニューマクロライド系抗生薬がよく使用されるようになってきています。症状がぜん息様で頑固な場合には吸入ステロイドや気管支拡張剤を使用します。

Q2・それでは方がマイコプラズマに感染してしまった場合、ほかの人にうつす可能性はどのくらいの期間でしょうか? ①1〜3日 ②1〜3週間 ③1週間〜1カ月 まる本当にしつこいものです。そういうとうも分かりましたでしょう。マイコプラズマの予防は何といっても手洗い、うがいが一番。基本を守って元気に過ごしましょう。

答え Q1③約3週間後 Q2③1週間〜1カ月 (いんべ杉谷内科小児科 医院院長・杉谷美代子) 松江市東忌部町)